



あゆみだより

令和7年度第1号
令和7年5月14日発行
沼津市立沼津高等学校・中等部

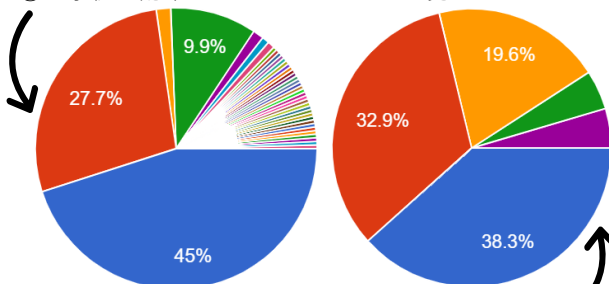


令和7年度がスタートして1か月余りが経ちました。鷹峯祭に向けて、校内が活気付いています。教職員一同、生徒の成長を願う、その思いをひとつにして、令和7年度を走っていききたいと思います。「あゆみだより」では、生徒や教職員の様子を随時発信していきます。発行は不定期です。1年間、よろしくお願いいたします。

中等部 中等部生に聞きました

中等部の存在を何で知りましたか？

- ①保護者から聞いたから
- ②友達や先輩から聞いたから
- ③小学校で配布されたパンフレットを見たから



中等部受験を決めたのはいつ頃ですか？

- ①小学6年生9月以降
- ②小学6年生4月～8月
- ③小学5年生

本校自慢の施設のひとつ、プレゼンテーションルームにて社会科の授業。本時の課題『明治政府の外交は成功か？失敗か？』

本校最大の学校行事である鷹峯祭まで2週間余りとなりました。今年のテーマは「花束～永遠の想いをここに～」。

一つ一つの花びらが集まって美しい花束を作り上げるように、一人ひとりの力が集まって素晴らしいイベントになることを願っています。生徒会を中心に、各部活動、各学級それぞれの単位で、着々と準備が進められています。こちらは、廊下や階段にまで漏れ聞こえてくる楽しそうな歓声に誘われて教室を覗いてみると…「中等部ムービー」作成の一場面！完成版がとても楽しみです。一般公開は6月1日（日）です。どうぞお出掛けください♪



中等部 ブログ

日常の様子はHP内のブログもぜひ御覧ください♪



高校 ブログ

高校生の1日

高校



中等部生も高校生も、朝は読書から。落ち着いた1日の始まりです。



授業中の一コマ。仲間とともに、時に楽しく、時に真剣に学んでいます。

来週は中間テストだ～!!!
放課後の自習コーナー大盛況

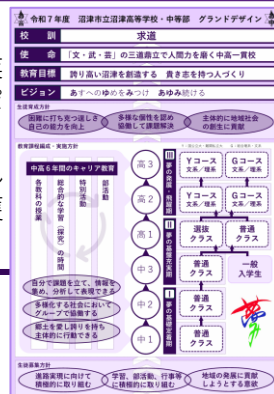
インターハイ予選、その他各種大会にどの部も健闘・善戦しています！（写真はそこからごく一部です。）



今年度は、学校経営計画の中でも、特に「自ら学び、自ら進路を切り拓く生徒の育成」「中高一貫の強みを生かした学校改革の推進」に向けて、総合的な学習（探究）の時間を核とした探究的な学びの充実に取り組みます。中等部と高校が一層の連携を図りながら、本校の“ブランド”をより一層明確にしていきます。

令和7年度沼津市立沼津高等学校・中等部の全体像

令和7年度に目指す教育の全体像を、グランドデザイン（別紙）に示しました。スクールカラーである紫を基調に、シンプルに表現しました。ここには、入学から卒業までの教育活動の指針（スクール・ポリシー）を埋め込んであります。スクール・ポリシーは、これを明確に示すことで、生徒の学習意欲を喚起し、その可能性や能力を最大限に伸長するための各学校の特色化・魅力化を図ることを目指すものです。これにより、「学校が果たすべき役割」や「育てたい生徒像」を見つめ直し、生徒、保護者、地域の皆様と共有していくことが求められています。



スクール・ポリシー（3つの方針）

卒業までにこのような生徒を育てます
(グラデュエーション・ポリシー)

- ・困難に打ち克つ逞しさを持ち、自己の能力を向上できる
- ・多様な個性を認め、協働して課題解決できる
- ・沼津市を愛し、グローバルな視点を持って、主体的に地域社会の創生に貢献できる

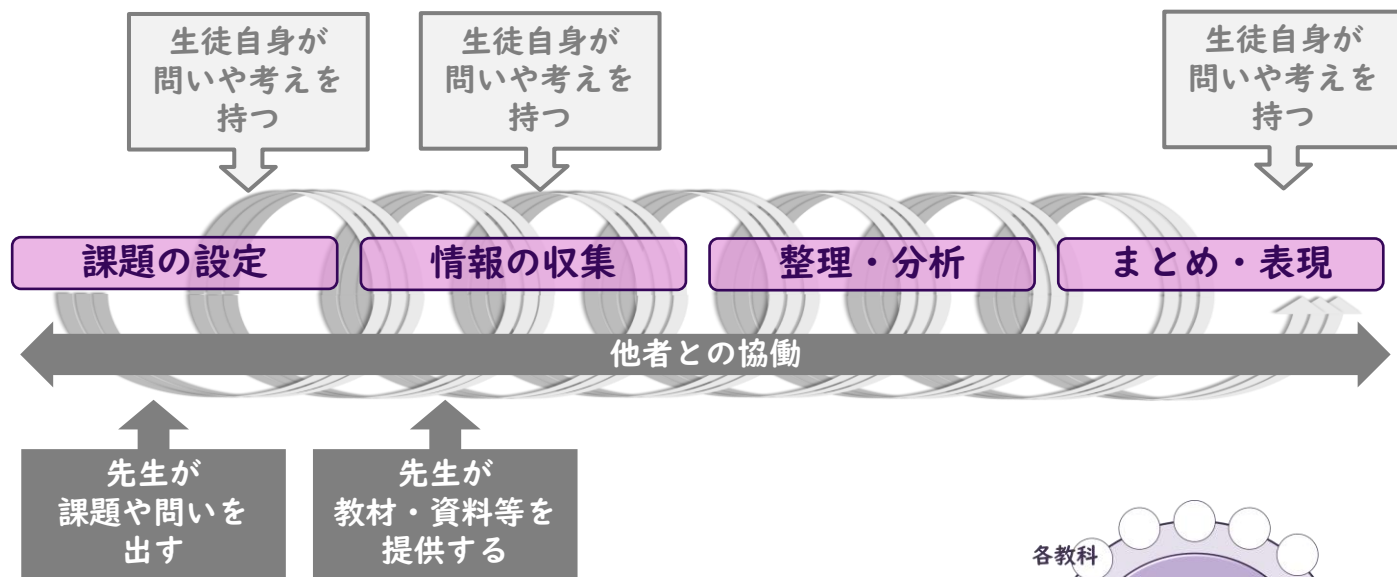
このような学びを実現します
(カリキュラム・ポリシー)

- ・自分で課題を立て、情報を集め、分析して表現できる能力を育む
- ・多様化する社会においてグループで協働する能力を育む
- ・郷土を愛し誇りを持ち、まちづくりに、主体的に行動できる能力を育む

このような生徒の入学を求めています
(アドミッション・ポリシー)

- ・本校の教育活動に関心を持ち、進路実現に向けて積極的に取り組む生徒
- ・学習、部活動、行事等に積極的に取り組み向上心がある生徒
- ・グローバルな視点を持ち、地域の発展に貢献しようとする意欲に満ちた生徒

令和7年度の重点「探究的な学びの推進」



一般的に「探究のプロセス」は、上の図の螺旋上に描かれた4段階（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現）で表されます。総合的な学習（探究）の時間では、これら全てを生徒が行います。生徒自らが「主体的に」考えて設定した「答えのない問い」や「答えの出し方が無数にあるような問い」に取り組むことによって、社会に出たときに求められる「課題設定・解決能力」や「情報収集力」「分析力」「表現力」などを鍛えます。探究学習に取り組むことで、教科の学力向上も期待できます。

また、この学び方は各教科の学びにも応用できます。異なるのは、4段階のプロセス全てを生徒のみで担うわけではないという点です。その過程では、教師の説明などによる知識のinputの場面もあるでしょう。生徒は、教材等との出会いや、他者との協働によって、自分なりの問いを持ちます。学習のまとまりの最後には、生徒自身によって成果（問いの解決）のoutputが行われます。そうして、学習内容を踏まえた新たな疑問が生まれ、次の学びにつなげていきます。生徒自身が「問い」をもち、考えを深める授業。これを、総合的な学習（探究）の時間を核として、全ての教科で推進していきます。